

令和2年度 学校自己評価書

A:よくあてはまる B:概ねあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない					
		A	B	C	D
1	<p>■目標（１）普通教科および専門教科指導の充実【2. 63】</p> <p>①社会人として必要な基礎学力を確実に身につけている。（授業の充実、宅習ノートの提出など）</p> <p>②思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を身につけている。（研究授業週間、朝の読書の充実、図書室の充実など）</p> <p>③資格や検定に挑戦し合格する。（朝課外指導、部活動との両立推進。）</p>		○		
2	<p>■目標（２）キャリア教育およびものづくり教育の推進【2. 70】</p> <p>①高い職業意識を有し、社会人としての資質を身につけている。（企業説明会、小論文指導など）</p> <p>②自己肯定感・自尊感情や人権感覚を身につけている。（ベンチを五十市公民館へ寄贈、研修会の実施、クラス面談実施など）</p> <p>③主体的に課題を解決する力を身につけている。（本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため企業等との連携は中止。昨年度は地元企業との連携、インターンシップなどを行った。）</p>		○		
3	<p>■目標（３）部活動および生徒会活動の振興【2. 74】</p> <p>①心身ともに健やかで、たくましさを身につけている。（保健だより発行、研修会開催、部活動生による清掃活動。また、挨拶や正しい服装の指導など）</p> <p>②主体性や協働性を身につけている。（春高バレー全国大会出場、文化祭の成功、生徒会活動、各部活動など。本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、ものづくり大会は中止。昨年度は測量競技全国3位となった。）</p>		○		
4	<p>■目標（４）教育の質の向上【2. 80】</p> <p>①安全教育及び環境整備の改善・充実が図られている。（交通安全教室、各科安全教育、花壇整備、私用ゴミ持ち帰り、実習室の整理整頓など）</p> <p>②危機管理及びコンプライアンスが徹底されている。（シェイクアウトへの参加、研修会など）</p> <p>③教職員の協力体制が築かれ、心身の健康が保たれている。（業務棚卸を実施、校外研修会、日々の職員室内、アンケート実施、リフレッシュデーの設定など）</p>		○		

学校経営方針

- 1 社会的・職業的に自立し、自ら学び続け、他者と協力し、生き抜く力を身につけた生徒の育成をめざし、学力の向上および心身の健康、キャリア教育および専門教育の充実に向けた教育を推進する。
- 2 教育の質を高めるために、安心・安全な教育環境の整備を一層前進させ、教職員の働き方改革を推進する。

学校スローガン 「生徒一人一人が育ち、輝き、誇りを持つ都工」

(1) 普通教科および専門教科指導の充実

各教室へのプロジェクタ配置などICT器機が充実し、生徒の興味ある教材を用いて授業の展開ができるようになった。また、来年度は、生徒個人のアカウントを登録し臨時休業時でもリモート授業等を行い、学びの保証ができるようにする。

教員の授業力向上に努め、10月に研究授業を行った。事後研修会において、教科学科の枠を超えて、授業について協議することが更なる教員のスキルアップにつながった。そのほか生徒の時間管理能力の育成を目指した取組としてノーチャイムウィークを学期毎に実施した。

資格取得においてジュニアマイスターゴールド18名、ジュニアマイスターシルバー22名であった。昨年と比較すると10名減少している。減少の原因については、コロナ禍の影響で例年は年2回実施が年1回実施となった資格検定があったことも考えられる。継続して、資格取得の意義をしっかりと説明して合格率向上に努めていきたい。

(2) キャリア教育およびものづくり教育の推進

進路状況について今年度856社から求人票をいただいた。就職希望者のうち、第一希望の企業内定率は91.3%であり昨年度とほぼ横ばいであった。県内就職状況は29%であり、昨年度より7ポイント増加した。今年度も県内企業理解を目的として、2年生の生徒と保護者を対象に県内企業説明会の実施や「地元企業情報」8号を作成し全生徒へ配付した。入学段階より明確な進路意識を持って入学する生徒が多く、依然として保護者本人の希望として県外就職が高い状況にある。また、進学は61名、公務員は10名であった。

ものづくり教育では、インテリア科が課題研究で制作したベンチを五十市公民館へ寄贈した。また、通学路の桜通りイルミ&アートフェスタへ「竹灯籠」や「アニメ画」などを各技術部が制作し装飾した。

(3) 部活動および生徒会活動の振興

運動系、文化系、技術系合わせて28の部そして1つの同好会が活動している。コロナ禍の影響で多くの大会が中止となったが、実施された大会において多くの部活動が上位の成績を上げることができた。特に、バレーボール部は春高バレー全国大会でベスト16、自転車競技部は全日本ジュニア選手権トラック大会女子で準優勝であった。

都工新聞（学校PR新聞）を2回発行して都城、三股地区の中学校に配布してきた。内容は、資格取得、部活動の活動状況など本校の学校生活の様子が伝わるコンセプトで構成しており、「中学生が行きたい、保護者が行かせたい」を意識した紙面作りを行っている。

(4) 教育の質の向上

人権学習の内容は、いじめ、ネット上のいじめ、偏見や差別、部落差別、進路保障に係る内容を各学年ごとに学期1回行った。いじめはどこでも起こりうることを認識して、迅速な対応を全職員でしていく。

働き方改革アクションプラン（業務の見直しと分担等の校務棚卸など5つの取組）を掲げ、推進委員会を3回開催した。